

第 4 回板橋区観光振興ビジョン策定検討委員会 議事要旨

■日 時 令和 7 年 9 月 29 日(月)14 時 00 分～16 時 00 分

■場 所 板橋区役所北館 9 階 大会議室 B

■出 席 者 安島委員長、武部委員、宮口委員、渡辺委員、島田委員
別府委員、伊東委員、平岩委員、家田委員

■傍 聴 者 なし

■配布資料 資料1 板橋区観光振興ビジョン 2035 素案(本編)
資料 2 板橋区観光振興ビジョン 2035 素案(資料編)
委員名簿

■次 第

1. 開会

2. 議題

板橋区観光ビジョン 2035 の素案について

3. 閉会

主な議論内容

1. 板橋区観光振興ビジョン 2035 の素案および資料編について説明(事務局)

2. 各委員からの意見

(1)基本理念、視点、目標について

- ・観光振興は本来外部からの観光客誘致が目的。現在の素案は区民対象の内容が多いがこれまでの議論を踏まえて、了解している。(別府委員)
- ・「目指す姿」が実際のビジョンに相当、現在の「目標」は「視点」に近い。目標と視点は入れ替えるべきではないか。(別府委員)
- ・目標の「いたくなる」は住みたくなるに繋がる。観光と住みたくなるは相反する問題があるため懸念がある。また、視点は漢字表記、目標はひらがな表記になっているが漢字

に統一すべき。(別府委員)

- ・基本理念、ビジョン推進視点、将来像、目標などの用語が混在している。誰が見ても理解できるようシンプルかつロジカルな整理が必要。(宮口委員)
- ・区の基本構想が記載されていると、かえって混同する。(安島委員長)
- ・目標については「もっとしりたくなる」「何度もいきたくなる」など冒頭に一言つけると、わかりやすくなる。(島田委員)
- ・ライフスタイルツーリズムは通常、「暮らすように旅をする」旅行者視点で使われるケースが多い。視点や主語が区民でも問題ないが混同してビジョンで伝えたいメッセージがずれるので注意が必要。(宮口委員)

(2)目標に紐づく施策関連について

- ・DXやAIなどデジタル技術の活用についての記載は、より具体的な内容を記載すべき。(別府委員)
- ・板橋の語源となった橋の模型を区役所ロビーに展示したり、夢のある話の記載をいれるべき。(別府委員)
- ・前回に比べてすごく良くなっているが記載している内容が実行できるように他部署との連携が大事。(島田委員)
- ・他区と比較した強み・弱みの比較分析と把握が大切。地元企業や板橋ブランドの活用、経済効果の観点もいれるべき。(伊東委員)
- ・区民向けだけでなく、もう少し開かれた形での国際的な視点があると、より魅力的になる。(武部委員)
- ・ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟についての記載は非常に良い。(渡辺委員)
- ・今回のビジョンは経済効果の目標は入れないというこれまでの議論であったが、経済や産業団体の方々が見た際には違和感を感じられる可能性もあるため、将来的には経済波及効果があるとの言及も必要ではないか。(宮口委員)
- ・登録有形文化財や産業遺産の観光への活用推進を。民泊やシェアハウスの展開も有効である。(渡辺委員)
- ・古民家でのコンサート開催など、新しい視点や組み合わせで価値を創出することが必要である。(安島委員長)

(3)資料編について

- ・51～52 ページのアンケートの結果でも色々な意見はあるが、区民や近隣の人を対象にした魅力を高める方向が良いと思う。(渡辺委員)
- ・25 ページ以下の区内施設の来訪者数というデータがあるが、観光施設と商店街が一緒になっている。来訪者の目的が異なっているのを同じ表でまとめるのは違和感がある。また、11 番に板橋宿と記載がある、板橋宿という施設はないので、対象施設と範囲を明確にするべき。(別府委員)
- ・観光庁の観光立国推進基本計画は第4次計画を記載しているが、間に合えば策定中の第5次計画への更新をすべき。(宮口委員)

3. 今後のビジョン策定の進め方

各委員からの意見を踏まえ、素案 5～6ページ記載の基本理念、視点、目標については、記載方や構成を修正していく。

4. スケジュール

10月の庁議および 11 月の議会へ素案を提示。最終案については参考資料の通りのスケジュールを予定。